

2. 基調講演

3.11後のJOGMECの役割

石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）石油開発推進本部企画調整部長 中島英史

JOGMECは2004年に石油公団（JNOC）と金属鉱業事業団（MMAJ）の機能を継承して設立された。石油開発部門、金属探査部門、備蓄部門、鉱害部門等で構成されている。

JNOCとJOGMECは328プロジェクトに投資を行い、67企業に債務保証を行ってきた。石油開発部門では、日本企業が実施する石油天然ガスの探査開発に対し、経産省から予算をいただいた中で出資・債務保証という形で支援している。出資・債務保証はプロジェクト全体の50%を上限としているが、条件次第では最大75%まで可能である。世界各国のプロジェクトに出資・債務保証を行っており、最近ではカナダのシェールガス案件に出資したり、モザンビークで出資した案件でもガスが発見され、LNG化が期待されている。

次に3月11日の震災とその影響について述べたい。昨年策定された日本のエネルギー基本計画は、地球温暖化対策のため原子力の役割が重視され、2030年に向けて原子力の導入が進められ、その比率を52%まで増やす見込みであった。東日本大震災以降、原子力に多くの期待が見込めない中、再生可能エネルギーに期待する傾向もあるが、当面、現実には化石エネルギーへの依存が増していくと考えられる。その中でも、温暖化対策との関係では天然ガスの比率

が高まっていく可能性が高い。

福島第一原子力発電所では1,000万kW（10,000MW）の電源が失われ、当面は回復しないと予想される。この電源の代替として、短中期的には石油と天然ガスを燃料とする火力発電で置換えるしかなく、年間約1,000万トンのLNGの追加需要が見込まれる。今回の震災後の原子力代替のための短期的なLNGの追加需要に対しては各国から協力いただき、サハリン2からも追加的にLNGを供給していただいた。ガスプロムをはじめとしてロシア関係者には日本国民の一人としてお礼を申し上げたい。

LNGは当初、インドネシア、マレーシア、豪州といったアジア・オセアニア諸国からの輸入が多かったが、カタール、アブダビといった中東からの供給が増え、サハリン2の稼働でロシアからも供給が増えている。サハリン2が稼働した2009年から増え始め、現在はLNG輸入量の9%程度を占めるようになってきている。サハリン2は2009年ベースで契約量の55%が日本の企業であり、日本にとって重要なLNG供給地点となっている（図2-7）。日本に最も近いLNGの供給元であり、輸送距離が短いだけにLNG基地の拡張による供給量の増加は日本にとってメリットになると考える。

図2-7 サハリンLNGの輸出先

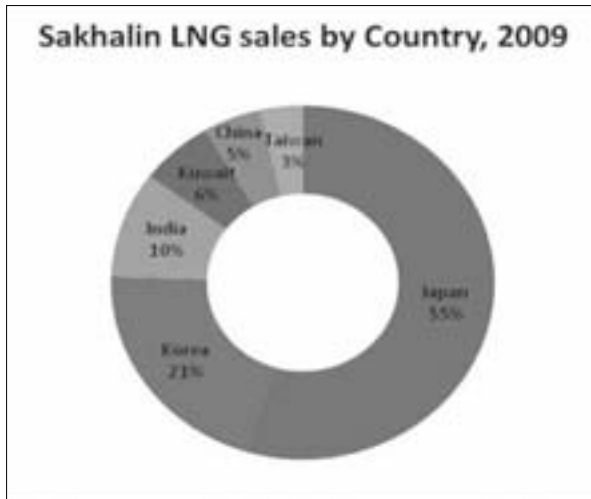
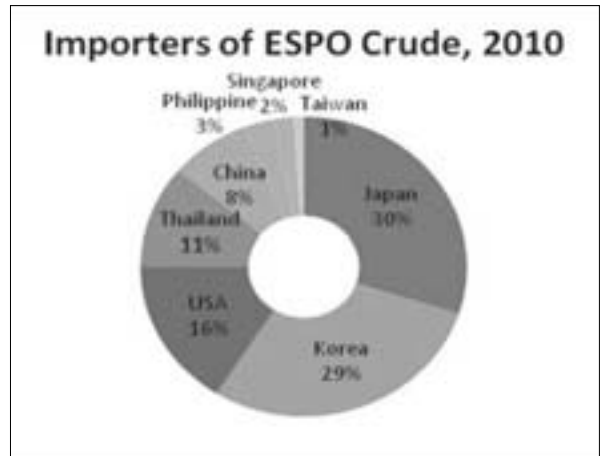


図2-8 「ESPO」原油の輸入元

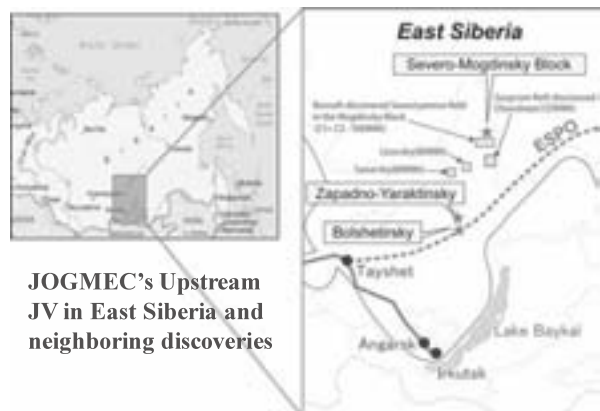


JOGMECは世界各地でガス田に投資しており、例えばカナダ・ブリティッシュコロンビア州コルドバ・シェールガスの案件に投資・債務保証をしており、そこでは将来、LNG化して日本に輸入することを考えていると聞いている。その他、投資している既発見ガス田では、モザンビーク、アバディ、パプアニューギニアといったプロジェクトでLNG化が計画されている。日本のガスの供給源の多様化はさらに進んでいくものと考えられ、JOGMECとしても安定供給を進めていきたい。

原油供給においては、日本の中東依存度が高い中でここ数年、ロシア産原油の比率が上がってきている。東シベリアからの原油は、地理的にも近い日本や韓国が大半を輸入している（図2-8）。供給安定性の観点では日本海を通るだけであり、マラッカ海峡やホルムズ海峡を経由しないため安全性が高い。仕向地条項がなく再販が可能で、長距離の輸送が必要な中東に比べるとフレキシビリティが高い。ただし、経済性では低硫黄で軽い良質な油であるため、価格が高い点が課題である。

今後、東シベリアからの石油、ガスパイプラインが延長されれば、原油だけでなく、ガスの輸入量増加にも貢献する可能性が高い。こうした中、JOGMECは東シベリアでイルクーツク石油（INK）社とのジョイントベンチャーで石油開発に参加している（図2-9）。INK社とのJVでは複数の鉱区で石油・ガスを発見しており、今後さらに探査が進展していくことを期待しているとともに、ロスネフチやガспромネフチとも協力関係が更に発展していくことを期待している。

図2-9 JOGMECの東シベリアにおけるJV



JOGMEC's Upstream JV in East Siberia and neighboring discoveries

ロシアのエネルギーは日本にとって次の理由から重要である。

- ・日本は中東原油への依存を代替できる新しい供給源を求めていること。
- ・アジア市場への新たな原油が競争を促進し中東からの輸入原油価格を低下させること。
- ・ロシアは近接性・安全性・フレキシビリティといった点で適切なエネルギー供給者であること。
- ・既存の中東からの供給原油が長期契約や仕向地条項があるのに対し、より強固な地位を築くであろうこと。
- ・LNGに関してロシアは未だマイナーな供給者であるが、中長期的にはサハリンや極東のLNG供給が重要になってくるであろうこと。

JOGMECとしてはロシア関係企業との関係を深め日本企業と共にロシアでの石油・ガスの開発に取り組んでいきたい。